

行橋市の歴史探検をしよう

古舘佳織
稲田美和
鈴木誉也
小田孝子
恒川徹
上村日向子
宮田諭志

四万十市立図書館
四万十市立図書館
四万十市生涯学習課
行橋市図書館
東京学芸大学附属竹早小学校
成城学園初等学校
成城学園初等学校

写真：行橋市デジタルアーカイブトップより
<https://adeac.jp/yukuhashi-city/top/>

これは何だろう？

1つの「もの」から，歴史探検をスタートしよう！

「ずいぶん昔のもののようにだね。」

「細かい線で描かれた絵があるね。」

「とても大切なものだと思うよ。」

「『百文』というのは，昔のお金の単位だ　　と思う。本
で読んだことがある。」

「紙でできているのかな。木でできているのか
な。」



インターネットを使って調べてみよう



これは「私札」です。どのようなものか、インターネットで調べてみよう。
行橋市のデジタルアーカイブを検索すると、行橋市に関係の深い情報が得られるね。



キーワードを、「私札」「行橋市」にして調べよう。

行橋市デジタルアーカイブによると…

商人私札の発行

天保年間に、城下町商人以外にも、在郷有力商人による貨幣代用の札(私札)が発行された。当市域について見ると、行事村の飴屋と新屋、大橋村の柏屋がある。私札発行の経緯について、飴屋の場合は、札発行の当初藩に銀三〇〇貫目を「御用借」として貸与したことで、その見返りとして同額の私札発行が認められたようである。またその背景としては、藩の国産仕法に関与する商人たちに農産物買い集め資金の捻出方法として許可されたことも推測される。

行橋市デジタルアーカイブ「行橋市史」P758より転載

行橋市の名前の由来について

行事村と大橋村，一字ずつ取って合わせたら
行橋になるね！



◆行橋という地名が生まれた頃を調べてみよう。

- ・行橋市デジタルアーカイブ
- ・ゆくはしキッズサイト

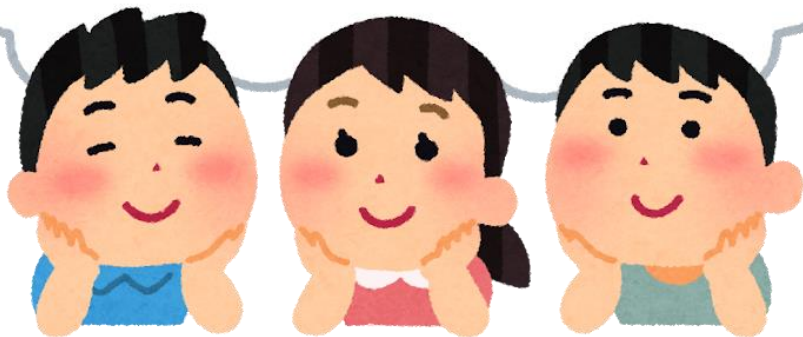
◆さらに調べてみよう。

「平成の大合併」では，市町村の合併が盛んに行われ，新しい地名もたくさん誕生しました。

私札を発行できた有力商人について調べよう

行事村の飴屋について調べて考えよう。

- ・なぜ飴なのかな？
- ・どのようにして大きな利益を上げたのかな？
- ・飴以外の商品はあったのかな？



行橋市の施設を活用しよう

インターネットだけでなく、行橋市歴史資料館や図書館に出かけて調べてみましょう。職員の方にお話をうかがうことができれば、さらに調べ学習が深まります。



↑行橋市図書館（リブリオ行橋）
（リブリオ行橋ホームページより）

↓行橋市歴史資料館
（行橋市ホームページより）



商売繁盛の鍵は、水運

行橋市デジタルアーカイブの「大橋村 行事村 宮市村見取図」を見てみましょう。[「大橋村 行事村 宮市村見取図」](#)（←こちらをクリック）

江戸時代に栄えた飴屋などの商家の屋敷は、行事川（今の長峡川【ながおがわ】）沿いにあることが分かります。

商人は、川と海を利用して船で大坂（大阪）方面に商品を運び、大きな利益を得ていました。

川や海を利用できる土地であることが、商売をする範囲を広げ、大きな利益につながったということですね。



行橋市の今，そして，未来

今の行橋市では，江戸時代の頃とは大きく変わった面もありますが，自然環境の特性を生かした産業が栄えています。どのような産業があるか，それが行橋市の特徴とどのようにつながっているのかを調べてみましょう。

そして，行橋市の未来に向けて，どのようなことが進められているかを調べ，よりよい町づくりのために何が大切かについて話し合ってみましょう。

歴史を学んだからこそ見えてくる未来の姿があるはずです。